

令和3年度 花園第三保育室 自己評価分析と今後の課題

園内評価より	
I 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度とほぼ同様に、「よくできている」「まあまあできている」がほとんどを占める。が、「保育所保育指針」の理解や「環境の構成」で「あまりできていない」以下の評価が見られるため、再度の周知と学習の機会が必要だと思われる。</li> </ul>
II 保育の在り方、幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模保育事業所のため、この項目は割愛</li> </ul>
III 保育者としての資質や能力・良識・適性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの職員が、保育者としてのマナーや義務の理解、組織の一員としての自覚は有と評価。</li> <li>・約1名、低評価傾向にある職員への個別のフォローが必要</li> </ul>
IV 保護者への対応・守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね保護者への対応守秘義務についての評価は高い</li> <li>・その中でも情報の発信と受信、自園の苦情解決システムについて保護者への説明等「あまりできていない」「まったくできていない」評価をする職員に対しての個別フォローが必要である。</li> </ul>
V 地域の自然や社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々との挨拶などは「できている」と評価。</li> <li>・小規模保育事業所のためか、小学校や高齢者施設との交流については職員の興味関心が薄いようである。3歳未満児であっても交流の方法はあると考えられるので、検討していきたい。</li> </ul>
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ねできているという評価が多い。しかし、「あまり、まったくできていない」評価をつける職員もあり、個別の対応が必要である。</li> <li>・保育の専門知識以外への関心が例年より高い評価が多い傾向が続いている。</li> </ul>
VII 保育の在り方、3歳未満児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての項目において「できている」という評価が多くみられる。が「乳幼児のみとりと理解」について「あまりできていない」と評価する職員が半数近く見られることが課題と思われる。</li> <li>・保育者からの働きかけに関しては、高評価であることから、乳幼児を主体とした保育についてさらに学びを深めていく必要があると思われる。</li> </ul>

利用者評価より	
★家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園に意見や苦情はなかったという回答が 10 割。コロナ禍の中でも、少人数施設であることが幸いし、送迎方法等姉妹園に比べ変化がなかったためだと思われる。</li> <li>・子育ての悩みについても保育者に相談できるとすべての家庭が回答。保育者の自己評価とも一致する。</li> </ul>
★カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の基本方針や保育方針に関して、「知っている」「少し知っている」との回答で 10 割。また、わが子が充実した園生活を過ごしていると感じている家庭も 10 割。</li> <li>・園が子どもの人権を守っており大切にしているという評価も 10 割で、園内の評価とも一致する。</li> </ul>
★環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内の清掃環境、雰囲気に関しては高評価である。</li> <li>・保育者のコミュニケーションや言葉遣い、あいさつについても概ね評価が高い。</li> <li>・保育者側が自己満足に終わることなく、利用者との関わりをもう一度園内で見直すことが必要である。</li> </ul>

※令和3年度の利用者アンケートも、メール連絡網を使ったオンラインでの回答となった。回収率は今年度47%となり、昨年度から10%近く減少する回収率となった。送迎時に回収ボックスに入れるほうが第三の保護者は回答しやすかったようである。